UNIVERSAL DISPLAY CORPORATION

6/17/2008

100LM/Wを超えたユニバーサルディスプレイコーポレーションの白色OLED技術－半導体照明の主要マイルストーン

高性能の燐光性OLED技術の使用で可能になったユニバーサルディスプレイの白色OLEDが、経済、エネルギー、環境に著しい利益をもたらす可能性

2008年6月18日、ニュージャージー州ユーイング－ユニバーサルディスプレイコーポレーション（ナスダック：PANL）、UNIVERSAL PHOLED（TM）燐光性OLED技術を通じ、今日と明日のディスプレイおよび照明を支える革新リーダーが今日、独占的かつ高効率の燐光性OLED技術を使用して、1000cd/m2で102ルーメン/ワット(lm/W) のパワー効率を持つ記録破りの白色OLEDのデモが成功裡に終わったことを発表した。

「今日発表したこの記録的マイルストーンを経て、白色OLEDは1年あたり1000億ドルの照明産業の主要関係者にさらに近づく意義ある一歩を標すでしょう。」

Tweet this

ユニバーサルディスプレイは、先月、ザ・ソサエティー・フォー・インフォメーション・ディスプレイ・シンポジウムで、72lm/Wの新しい記録を発表したばかりである。それ以来ユニバーサルディスプレイは、さらに別の主要マイルストーンの商品化を実現し、世界中のエンドユーザーに向けて白色OLEDが飛躍的な省エネと環境利益を提供する可能性を立証して、この分野において目覚しい進歩を続けている。初めて白色OLEDが、現役の2つの屋内照明技術のパワー効率を凌いだ－白熱電球は15lm/W未満で、蛍光燈のほとんどは60～90lm/Wである。半導体照明イニシアティブのために 米国エネルギー省（DOE）から供給された資金の一部において、ユニバーサルディスプレイの102lm/Wのマイルストーンは、2015年までに150lm/W商業用OLED光源を達成するというDOEの目標計画に向けた重大な成果となった。

またこのWOLED光源は、70の演色評価数（CRI）と3900ケルビンの修正色温度（CCT）で心地よい白色発光も提供する。この全燐光OLED構造は、共同パートナーであるLG化学と新日鐵化学会社の支持材料を使用している。

電気料金は照明だけで、世界的な規模で見ると1年あたり2000億ドルを超えている。総電気生産量のおよそ20%を消費することで、照明が地球温暖化ガス排出の最大原因の1つになっている。急速に伸び続ける照明の社会的需要で、よりエネルギー効率の良い照明の必要性は、環境のみならず、経済的な理由からも真に重要になっている。ユニバーサルディスプレイのPHOLED技術を使用したパワー効率に優れた白色OLEDは、劇的にエネルギー消費量を減らし、追加エネルギーと環境負荷を作成する副産物熱の量を減らす可能性を秘めている。また、白色OLEDは、特に水銀含有蛍光燈や最新の電球型蛍光ランプ（CFL）と比べて、環境破壊も少ない。白色OLEDは、世界規模で200億ドルをはるかに超える電力量をセーブし、2016年までに米国だけで、900万メートルトン以上の炭酸ガス排出量を減らせるだろうと予測されている。

これらの'地球に優しい'という重要な特徴と、非常に薄くて軽量、かつ耐久性のある形状因子とを組み合わせ、白色OLEDは意義深い新照明の設計機会を提供している。また白色OLEDは、健康によく自然な照明を想定した極めて心地よい白色発光で、涼しげな白色から暖かな白色まで、容易に色調整が可能である。白色OLEDは無機LEDに比べ、大量生産で非常に費用対効果が期待できる卓越した拡散エミッタである。さらに、熱の除去が重要課題のまま残っている無機LEDとは対照的に、OLEDはクールな光源である。

「1ワット当たり100ルーメンの達成は、弊社および業界のためにも、この上ない偉業です。我々の白色OLED研究開発に関して 継続的なサポートを下さいました、米国エネルギー省に感謝申し上げます。」と、ユニバーサルディスプレイの最高経営責任者兼社長スティーブン・V・アブラムソンは語った。「今日発表したこの記録的マイルストーンを経て、白色OLEDは1年あたり1000億ドルの照明産業の主要関係者にさらに近づく意義ある一歩を標すでしょう。」

今日、ユニバーサルディスプレイの独占PHOLED技術と材料は、さまざまな携帯機器向けアプリケーション用の低消費電力OLEDディスプレイ製品として商業利用されている。また、これらに加え、テレビ、PHOLEDなどの新生OLEDアプリケーションにおいて、省エネ、環境利益、および費用効果の実施に移される優れたパフォーマンス特性を提供するためにも重大な意味を持っている。

ユニバーサルディスプレイコーポレーションが、いかにディスプレイと照明産業の様相を一変させているかをご確認いただくために、www.universaldisplay.com をご訪問ください。

ユニバーサルディスプレイコーポレーション概要
ユニバーサルディスプレイコーポレーションは、革新的なOLED技術とフラットパネル・ディスプレイの使用材料、半導体照明製品、電子通信、および他のオプトエレクトロニクス装置を開発、商業化している世界的リーダーカンパニーです。ユニバーサルディスプレイは、プリンストン大学、南カリフォルニア大学、ミシガン大学、およびPPGインダストリー・インクを含む、世界一流の団体のネットワークと連携している。また、チーメイオプトエレクトロニクスやデュポンディスプレイ・インク、コニカミノルタテクノロジーセンター・インク、LGディスプレイ株式会社、三星SDI、セイコーエプソン、ソニー、東北Pioneer、トヨタインダストリーズなどの会社と幾多の商業関係を確立している。ユニバーサルディスプレイは現在、世界中で850以上の発行済みの係属特許を所有、またはそれに関する独占実施権または共同独占実施権、または唯一の実施権を持っている。

ユニバーサルディスプレイは、ニュージャージー州ユーイングの、研究パートナーであるプリンストン大学のすぐ近くに位置するプリンストン・クロスロード・コーポレートセンターにある。ユニバーサルディスプレイの最先端の施設は、技術と材料開発、メーカーパートナーに移譲する技術を促進し、顧客ニーズを満たすOLED製品を開発するため顧客と協力できるよう設計されている。www.universaldisplay.com のユニバーサルディスプレイのサイトをご訪問ください。

ユニバーサルディスプレイの技術およびそれら技術に関する潜在的アプリケーションなどの史実に基づかない本文書のすべての声明は、1995年の私募証券訴訟改正法の意義の範囲内での見通し情報です。これらは将来の出来事に関してユニバーサルディスプレイの現在の見解を反映したものであり、実際の結果は予期したものとの間に重大な相違が生じる可能性を持つリスクと不確実性を含んでいるため、本書における見通し情報に対して、いかなる過度な信用も置かないようお願い申し上げます。これらのリスクと不確実性については、証券取引委員会に申請したForm 10-K and Form 10-Qのユニバーサルディスプレイコーポレーションの定期報告で、特に、2007年12月31日に終了したユニバーサルディスプレイコーポレーションのForm 10-Kの年次報告における表題「リスク因子」の章で、これまで以上に詳しく説明されています。ユニバーサルディスプレイコーポレーションは、本書に含まれるいかなる見通し情報を更新する何らの義務をも負いません。

CONTACTS

ユニバーサルディスプレイコーポレーション
その他の連絡先:
ディーン・レジャー
800-599-4426

グレゴリー FCA コミュニケーションズ
投資家情報のお問い合わせ:
ポール・ジョンソン
paul@gregoryfca.com
610-642-8253 (x115)

マスコミ関連のお問い合わせ:
マット・マクローリン
matt@gregoryfca.com
610-642-8253 (x129)